第３　問題作成部会の見解

日　本　史　Ａ

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　学習指導要領日本史Ａ２内容⑶ウ「近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題」として，「郵便切手を手がかりとした時代的事象の分析と考察」をテーマに掲げた。郵便切手の来歴と図面を題材とした会話文を設け，「日本史Ａ」の学習内容が対象とする期間における出来事と，図案をめぐる歴史的背景を考察し，学習指導要領日本史Ａ２内容⑴にいう「現代の社会やその諸課題が歴史的に形成された」という観点を意識させることを目標としている。以上の意図のもと，幅広い時代にまたがる設問とし，史料を用いて，出題形式もバラエティに富むよう心掛けた。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問３については，正答率が３割を下回り，最上位者を識別する問題となっている。

問１　明治期の郵便事業と経済産業について基本的知識を問うた問題で，会話文内の「郵便制度」「渋沢栄一」から判断できる問題と評価された。

問２　図示された郵便切手とその特徴を読み取る問題で，郵便事業の基本的知識を活用して正答を導き出す思考力・判断力・表現力等を問うたもので，「共通テストらしい良問と言える」と評価された。

問３　リード文の内容と大正期日本の海外統治領域及び同時代の事象に関する基本的知識を活用する考察力を問うた問題で，「切手が焼失しなかった理由について正答を選択する良問」との評価を得た。

問４　明治期の思想について，基本的知識を問うた問題で，「知識と史料の読み取り内容を合わせる共通テストらしい正誤判定問題と言える」と評価された。

問５　近代日本におけるスローガンや標語について，どのような国内状況を背景として出されたのかを問うた問題で，両者の結びつきを考える思考力・判断力・表現力等を問うた。「それぞれの文章の時代がわかりやすく解答しやすい問題であった」と評価された。

問６　戦後日本の放送・メディアについて問うた問題で，「大正・昭和初期・敗戦直後の文化についての正確な知識・理解」を求めた問題と評価された。

問７　絵はがきの図版を読み取ったうえで，昭和戦前期の事象との連関を見いだす考察力を問うた。「資料から時代を特定し，歴史的事実の組合せを解答する形式であり，複合的な出題で良問」と評価された。

第２問　学習指導要領日本史Ａ２内容⑵ア㈦のうち，「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出，文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容，自由民権運動と立

憲体制の成立に着目して，開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」という点を踏まえ，演劇部の高校生たちが幕末から明治の時代を舞台とした演劇の台本を作成するという設定を基にして，当該期の政治や外交，社会の動向に関する知識・理解と，思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。

問１　幕末から明治初期にかけての，政治・外交についての知識・理解を問う問題。「地名を選択させるのであれば，地図を用いて空間的な認識を問う出題の方が適切であった」との指摘を受けた。多様な出題を工夫するよう，今後一層留意したい。

問２　幕末から明治中期にかけての，服装・身なりと，それに関わる日本国内の動向の知識・理解を相互に関連付けて，それらの歴史的事象を時系列的にとらえる力を問う問題。「幕末から明治初期の日本国内の情勢に関わる理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問３　明治期における教育についての知識・理解を問うとともに，史料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推する力を問う問題。「史料を丁寧に読み込めば，Ｘの正誤の判断は容易だが，Ｙは国定教科書制度の時期を把握しておかなければ判断できない」という評価をうけた。

問４　演劇の台本の作成を通じて，幕末から明治中期にかけての様々な歴史的事象に関して考察したことや，構想した過程，その結果を，理由や根拠に基づいてまとめることができる思考力・判断力・表現力等を問う問題。「正確な知識・理解だけでなく，思考力・判断力・表現力等も求められる良問」という評価をうけた。

第３問　学習指導要領日本史Ａ２内容⑵ア・イのうち，「明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」，「条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化，政党の役割と社会的な基盤に着目して，国際環境や政党政治の推移について考察させる」，「産業革命の進行，都市や村落の生活の変化と社会問題の発生，学問・文化の進展と教育の普及，大衆社会と大衆文化の形成に着目して，近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる」を踏まえ，税という着眼点を軸にしつつ，社会・経済や立憲政治，国民生活や文化，国際情勢など幅広い分野と関連付けた理解・歴史的思考力や，文献資料・統計資料など様々なタイプの資料に基づく思考力・判断力・表現力等を問うことを目的とした。全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。

問１　明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を問うた。「多角的な判断が求められている良問であった」との評価をうけた。

問２　明治政府による諸改革に伴う社会や経済の変容に着目して，近代国家が形成される過程について考察させた。「資料活用する問題であり良問であった」との評価をうけた。

問３　明治政府による諸改革に伴う社会や経済の変容に着目して，資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を問うた。「史料を丁寧に読み解き考察する力が必要」との評価をうけた。

問４　産業革命の進行，工業化の進展に着目して，近代産業の発展について，歴史的事象を時系列的に捉える力を問うた。

問５　日露戦争前後の対外関係の変化，文化の形成に着目して，国民生活の変化について，資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を問うた。「史料から商人である親の気持ちを推測させる面白い問題であった」との評価をうけた。

問６　条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化，諸国家間の対立や協調関係と日本の立場，国内の経済・社会の動向に着目して，国際環境や内政の推移について考察させた。

問７　近代における政治や経済が相互に深く関わっているという観点から，政党の役割と社会的な基

盤に着目して，資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を問うた。「表に即して思考力・判断力・表現力等を働かせることと，明治時代の税制と選挙権に関する正しい知識・理解が求められた」との評価をうけた。

第４問　学習指導要領日本史Ａ２内容⑴「近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える」ための主題として，生徒にとって身近な修学旅行を入り口にして日本の近現代における旅・旅行に関わる歴史的事象の分析と考察をテーマに掲げた。修学旅行の来歴（年表）としおりを示し，そこから学習指導要領日本史Ａ２内容⑵ウにいう「近代における政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から，産業と生活，国際情勢と国民，地域社会の変化などについて」，「日本史Ａ」の学習内容に即して問うた。さらに，近現代の旅・旅行に視野を広げてその歴史的背景を考察する力を問い，学習指導要領日本史Ａ２内容⑶ウにいう「現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点」からの歴史の見方や考え方を養うことを目標としている。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問７については，正答率が３割を下回っており，最上位者を識別する問題となっている。

問１　戦前と戦後の学校制度に関する基本的な知識を問うた。「教育制度についての正確な知識・理解が求められた」と指摘を受けた。

問２　明治に実際に行われた修学旅行の旅行記を素材に，その意図を考える力を問うた。「世界情勢の動きの中での日本について意識的に学習することを促す出題」と高く評価された。

問３　昭和戦前期に実際に行われた修学旅行の行程表を素材に，その特徴と意図を考える力を問うた。「知識を合わせて解答する形式は複合的と言え，良問」と高く評価された。

問４　農商務省の調査を用いて炭鉱労働者の移動を，山本作兵衛の描いた炭鉱の記録画の解説文を素材に，当時の炭鉱労働者の置かれた状況についての思考力・判断力・表現力等を問うた。

問５　1912年に訪日客を誘致する組織が設けられた背景についての思考力・判断力・表現力等を問うた。「選択肢の記述に関する正確な知識・理解と出来事が起こった時期について判別することが求められた」と評価された。

問６　沖縄国際海洋博覧会に関する新聞記事の見出し一覧を素材に，戦後の沖縄がおかれた状況についての思考力・判断力・表現力等を問うた。「資料から事実を確認することができる良問」と評価された。

問７　第二次世界大戦後の日本とアジアの状況に関する基本的な知識を問うた。「国際的な関係性やつながりを意識した学習を求める出題としては示唆的であった」と高く評価された。

第５問　学習指導要領日本史Ａ２内容⑵イ㈠のうち「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場，国内の経済・社会の動向，アジア近隣諸国との関係に着目して，二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」や，⑶アのうち「占領政策と諸改革，新憲法の成立，平和条約と独立，国際交流や国際貢献の拡大などに着目して，我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」，ウのうち「近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ，資料を活用して探究し，その解決に向けた考えを表現する活動を通して，歴史的な見方や考え方を身に付けさせる」を踏まえ，近現代の政治・外交・社会に関する理解と，思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問３及び問４については，正答率が３割を下回っており，最上位者を識別する問題となっている。

問１　アジア太平洋戦争（太平洋戦争）後期の日本国内の動きに関する知識を，歴史的事象を時系列的に捉える力とあわせて問うた。

問２　空襲に際して散布された伝単資料を手掛かりに，資料から読み取った情報と習得した知識を活用して，アジア太平洋戦争（太平洋戦争）末期の日本を取り巻く国際情勢を考察する力を問うた。

「史料を丁寧に読み解き，得た情報から考察する力と基本的な知識・理解が問われる良問」と評価された。

問３　敗戦直後の日本国内の政治過程に関する知識を，歴史的事象を時系列的に捉える力とあわせて問うた。「戦後政治について丁寧な学習が望まれる」との評価を得た。

問４　1945年８月から５年以上の後に書かれた平和像建設趣意書を手掛かりに，資料から読み取った情報と習得した知識を活用して，当該期の日本国内の状況と国際情勢の相互関連を考察する力と，戦時中の戦況と国内被害との関係についての知識を問うた。「知識の面でやや難しかった」と評価された。

問５　1970年代の日本社会に関する基本的知識を問うた。「正誤は判定しやすい」と評価された。

問６　東京空襲を記録する会の中心人物の一人である早乙女勝元の1970年の新聞投書を手掛かりに，資料から読み取った情報と習得した知識を活用して，東京空襲に関する当時の認識と日本を取り巻く対外関係の相互関連を考察する力と，1970年代の対外関係と国内の状況に関する知識を問うた。

問７　東京空襲に関する資料集の構成を手掛かりに，東京空襲について探究できるテーマについて，その根拠となる資料を考察・判断する力を問うた。「思考力を問う」「良問」と評価された。

３　出題に対する反響・意見等についての見解

問題の程度について，「学習指導要領の趣旨を踏まえ，思考力・判断力・表現力等や資料読み取りの技能等を問うものが多く，受験者にとってほとんどが初見の史料であったにもかかわらず，丁寧に読み解けば，正答を導くことが可能」であると評価していただいた。また「知識・理解のみを問う問題は少なく，出来事や用語の内容や背景，因果関係や影響を把握しているか等，『知識・理解の質』」を問うていることも評価していただいた。さらに多くの史資料を用いることで，多角的な視点から歴史を考察させたいという出題者の意図も読み取っていただき，会話文を中心に実際の学習活動を想定した場面の設定から，受験者が「普段から主体的・対話的な学習，深い学びが重要であることのメッセージにもなっていた」との評価もいただいた。

今回の出題によって，「授業においてただ単に歴史を教えるだけでなく，『過去』から学び，それを土台にして『現在』を理解し，『未来』を考えていくことが大切であるという」部分を読み取っていただき，「高等学校教育における授業改善が」期待できるとのことで，これは部会としても喜びとするところである。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。一方，文化分野の出題が減少したことは，今後の課題であり，また「地図を用いた出題が見られず空間認識を問う観点が出題上不足している」との指摘もいただいており，今後の課題としたい。

４　ま　と　め

今年度の平均点は45.38点で，前年度より4.41点上がった。知識・理解の質と思考力・判断力・表現力等を組み合わせて正解を導く問題を工夫した結果とも考えられるが，おおむね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も，この方向で問題作成を進めたい。本部会は従来からの問題作成上の留意点として以下の４点を挙げてきた。

⑴　高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく，標準的な問題を作成するように心掛ける。

⑵　高校現場での授業に配慮する。

⑶　問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ，「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。

⑷　「日本史Ｂ」との共通問題について，難易度に一層配慮する。

今回３回目の共通テストで，これまでの知見の蓄積を活用し，ご指摘いただいたことも踏まえ，問題作成を行っていきたい。

日　本　史　B

1　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2　各問題の出題意図と解答結果

第１問　学習指導要領日本史Ｂ１目標に書かれた「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ」ることを目的とし，日本地図を素材として，それぞれの地図の特徴とそれが作製された当時の政治的・社会的背景とを関連付けて考えさせることをねらって，会話文・設問を作成した。その際，各時代の国際環境・地理的条件とともに解釈の多様性に気付くことにも留意し，古代から近現代まで時代に偏りなく出題することを意図した。「各時代の概観を理解しているか，時代を見通すことができるかを問う出題」と高く評価された。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問３については，正答率が８割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

問１　教科書の知識と提示した資料をもとに，律令国郡制の成立過程とその特徴を読み取ることを問うた。教科書での知識のみならず「史料読解の技能」が必要であると評価された。

問２　中世日本と東アジアとの関係を時系列に沿って理解しているか問うことを目的として出題した。室町期における日本と東アジアとの交流及び動向に関わる理解を確かめる問題と評価された。

問３　古代・中世の境界意識の特徴に対する理解を問う問題として出題した。説明の内容を読解する技能と，古代の関と中世の北方世界に関わる理解を深める問題との評価が得られた。

問４　国絵図に描かれている内容からの制作意図の読みとり・伊能忠敬の全国測量事業の歴史的位置づけをあわせて問うた。資料を活用して歴史的な背景を問う良問と評価された。

問５　近代の測量事業・海図利用について歴史的出来事と関連付けた理解を問うことを意図して出題した。明治初期の日朝関係や大戦景気といった幅広い理解が必要であるとの評価を得た。

問６　設問全体の総括として，高校生の学習のまとめという場面を設定し，地図からうかがうことができる特徴を歴史的に考察することを問うた。「今後の日本史探究の学習に通ずるものがある示唆的な出題」と評価された。

第２問　学習指導要領日本史Ｂ２内容⑴「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて問題を作成した。そこに示された「原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について，国際環境と関連付けて考察させる」べく，日本固有の古代思想史の展開を主たるテーマとし，中国起源の文化との関係にも配慮しながら陰陽道の役割を理解し，具体的な史料の読解・分析と高校での学びとを結びつけ，思考する過程を重視する設問とした。古代の陰陽道の歴史について述べた文章をもとに，縄文時代から平

安中期の政治・社会史及び経済史について問う問題であり，前半部分は特に資料を用いないリード文と下線による出題で取りかかりやすく，後半は資料二つを読み取る資料読解の問題であると評価された。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問１及び問２については，正答率が８割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

問１　原始時代から古墳時代の日本固有の信仰についての知識と理解を問うた。ここ数年出題がなかった原始も含み，日本史Ｂの学習範囲として適切な出題となったと評価された。

問２　古代の暦の作成や陰陽道に携わった組織や人間が，天皇と近い関係にあったことを理解しているかを問うた。実質的には律令体制下の中央行政組織について問う問題として評価された。

問３　政治史の知識を踏まえ，それをもとに年代整序させる問題とした。奈良時代から平安中期という１世紀単位での政治史を把握する力，「理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる」「良問」として評価された。

問４　具注暦の具体的な利用がわかる史料を取り上げた。後半は史料を読み解く問題で，分量も適切であり，「脚注を参考にすれば，正確に判断できようになっている」点が評価された。

問５　リード文全体や史料１・２を踏まえて，日本古代の陰陽道の歴史について全般的に扱った。暦や陰陽師の役割と，国家や貴族との関係を理解できるかを問うた。

第３問　学習指導要領日本史Ｂ２内容⑵イのうち，「宋・元などとの関係，仏教の動向に着目して，中世国家の形成過程や社会の仕組み，文化の特色とその成立の背景」，及び⑵ウのうち，「日本の諸地域の動向，日明貿易など東アジア世界との関係，産業経済の発展」，そして⑵アの「歴史資料を含む諸資料を活用して，歴史的事象の推移や変化，相互の因果関係を考察するなどの活動を通して，歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」を踏まえ，中世の京都についての経済・社会・文化全般に関する学習の場面を取り上げ，史料や地図を読み解く技術や知識・理解を問い，この時期の経済活動及び経済政策について考察する設問とした。「地図，史料，模式図と多様な資料が用いられた」問題と評価された。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問３については，正答率が１割を下回った難問であり，識別力も低かった。

問１　図に示された情報を読み解きながら，戦国時代における商業地を調査する方法について思考力・判断力・表現力等を問うた。

問２　平安時代から鎌倉時代にかけての寺院の造営について時系列を問う問題。平安中期から鎌倉期の仏教寺院についての正しい知識が求められる問題と評価された。

問３　撰銭令に関する史料を読解する技能を問うとともに，室町時代から戦国時代にかけての貨幣流通について考察する力を問う問題。平易な史料の読解問題であるものの，二つの史料から撰銭令が発令された目的を正確に読解し，その背景について考察する力が求められる問題と評価された。

問４　中世における芸術や文化について知識・理解を問う問題。平安末期から室町後期の芸能・文化についての正しい知識が求められる問題と評価された。

問５　中世における経済の特質について知識・理解及び思考力・判断力・表現力等を問う問題。「学習のまとめや単元の整理に適した」「良問」と評価された。

第４問　学習指導要領日本史Ｂ２内容⑶ウのうち，「幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展，町人文化の形成」や「学問・思想の動きに着目して，近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景，幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる」を踏まえ，近世の経済・社会・文化・対外関係に関する総合的理解と，思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。「政治・外交史，社会史及び文化史」について総合的に問うたことが高く評価された。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問３については，

正答率が８割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

問１　近世の陸上・水上交通発達の要因について，知識・理解と思考力・判断力・表現力等を問う問題。陸上・水上交通ともに，選択肢の誤文は明確なので答えは選びやすいと評価された。

問２　近世の商業・商業政策について，時期の変化を分析的に捉える力を問う問題。「江戸期の商業に関わる理解と思考力・判断力・表現力等が求められる」問題と評価された。

問３　近世の文化に関する史料を読解する技能を問う問題。翻刻ではなく，実際の史料画像を読み解く形式で出題した。歴史的事象の正しい理解と資料を正確に読解する技能の両方が求められる問題と評価された。

問４　近世の対外関係に関する知識・理解を前提に，史料を読む技能，及び日本と中国との関係や交流についての思考力・判断力・表現力等を問う問題。「史料を正確に読解する技能とともに，同時期の幕府の対外政策に関わる理解と知識が求められる」と評価された。

問５　近世の社会に関する知識・理解と会話文から，現代とは異なる近世の人々の結びつきについて総合的に捉える思考力・判断力・表現力等を問う問題。「江戸時代の社会・経済，文化，政治と多岐にわたる基礎・基本を確認するという意味で良問である」と評価された。

第５問　学習指導要領日本史Ｂ２内容⑷アのうち，「開国と幕府の滅亡，文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」という点を踏まえ，演劇部の高校生たちが幕末から明治の時代を舞台とした演劇の台本を作成するという設定を基にして，当該期の政治や外交，社会全般の動向に関する知識・理解と，思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。

問１　幕末から明治初期にかけての，政治・外交についての知識・理解を問う問題。「地名を選択させるのであれば，地図を用いて空間的な認識を問う出題の方が適切であった」との指摘を受けたが，そうした出題は直近もなされており，多様な出題を工夫するよう，今後一層留意したい。

問２　幕末から明治中期にかけての，服装・身なりと，それに関わる日本国内の動向の知識・理解を相互に関連付けて，それらの歴史的事象を時系列的にとらえる力を問う問題。「幕末から明治初期の日本国内の情勢に関わる理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる」と評価された。

問３　明治期における教育についての知識・理解を問うとともに，史料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推する力を問うた。

問４　演劇の台本の作成を通じて，幕末から明治中期にかけての様々な歴史的事象に関して考察したことや，構想した過程，その結果を，理由や根拠に基づいてまとめることができる思考力・判断力・表現力等を問う問題。「『時代考証』を疑似体験するような出題形式で共通テストらしい出題である」という評価をうけた。

第６問　学習指導要領日本史Ｂ２内容⑹ウ「社会と個人，世界の中の日本，地域社会の歴史と生活」などについて考えるための主題として，修学旅行を入り口にして日本の近現代における旅・旅行に関わる歴史的事象の分析と考察をテーマに掲げた。修学旅行の来歴（年表）としおりを示し，そこから学習指導要領日本史Ｂ２内容⑸にいう「近代国家の展開と社会や文化の特色について，国際環境と関連付けて」問うた。さらに，近現代の旅・旅行に視野を広げてその歴史的背景を考察する力を問い，学習指導要領日本史Ｂ２内容⑹にいう「現代の社会や国民生活の特色について，国際環境と関連付けて」問い，歴史の見方や考え方を養うことを目標としている。こうした世界の状況と関連づけながら日本の近現代史を問うたことに対して，「国際的な関係性やつながりを意識した学習を求める出題としては示唆的」などの，高い評価を得られた。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問４については，正答率が８割を上回っているが，成績中下位者を

識別する問題となっている。

問１　戦前と戦後の学校制度に関する基本的な知識を問うた。「基本的な知識を問う問題で取り組みやすかった」と評価された。

問２　明治に実際に行われた修学旅行の旅行記を素材に，その意図を考える力を問うた。「世界情勢と日本との関わりについて意識的に学習することを促す示唆的な出題」と評価された。

問３　昭和戦前期に実際に行われた修学旅行の行程表を素材に，その特徴と意図を考える力を問うた。「総合的・系統的な理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる」問題と評価された。

問４　農商務省の調査を用いて炭鉱労働者の移動を，山本作兵衛の描いた炭鉱の記録画の解説文を素材に，当時の炭鉱労働者の置かれた状況についての思考力・判断力・表現力等を問うた。

問５　1912年に訪日客を誘致する組織が設けられた背景についての思考力・判断力・表現力等を問うた。「明治後期から大正期における政治・外交史及び経済史に関わる理解が求められる」問題と評価された。

問６　沖縄国際海洋博覧会に関する新聞記事の見出し一覧を素材に，戦後の沖縄がおかれた状況について問うた。「沖縄が返還された年についての知識と，資料読解の技能が求められる」問題と評価された。

問７　第二次世界大戦後の日本とアジアの関係に関する基本的な知識を問うた。「今後の歴史総合に向けた学習にもつながる示唆的な出題」と評価された。

３　出題に対する反響・意見等についての見解

出題内容について，「基本的事項の正確な理解や知識，資料を基にした思考力・判断力・表現力等を問うものであり，受験者の培ってきた資質・能力を評価するのにふさわしいものだった」との評価を得た。また使用された史資料が昨年よりも多様であり，図版や文字史料のみならず，身近な生活に関わるものにまで及んだことを評価していただいた。「出題範囲についても，時代・分野・領域の全てにおいて極端に大きな偏りは感じられず，おおむね適切であった」との評価を得た。問題の程度についても，「知識・理解の質や思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置され，総じて適正であった」との評価を得た。

一方で，日本史Ｂの授業での扱いが少ないため正答率がかなり低いものがある点，求める基本的な知識及び理解の程度についての検討が要請された。また事象が生じた背景を史料から考察する設問について，史料を正確に読み取り，その歴史的背景について考察するという，歴史学における分析手法に基づいた洗練されたものではあるが，正答率が低かったものについては，史料の読解を通して得た情報のみを用いて判断するのか，学んだ知識と得た情報とを結びつけて判断するのかについて，受験者が明確に判断できる設問文または史料の工夫が必要であるとの提言をいただいている。部会として改めて議論してみたい。

なお，古代で縄文・弥生・古墳からの出題がないという傾向があったが，今年度は出題されており適切な設定であった，との評価も得た。一方で，また近代以降の出題について手薄ではないかとの指摘もあった。次年度以降も引き続き，出題する時代の均衡については配慮していきたい。

４　ま　と　め

今年度の平均点は59.75点で，前年度より6.94点上がった。知識・理解の質と思考力・判断力・表現力等を組み合わせて正解を導く問題を工夫した結果とも考えられるが，おおむね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も，この方向で問題作成を進めたい。本部会は従来からの問題作成上の留意点として以下の４点を挙げてきた。

⑴　高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく，標準的な問題を作成するように心掛ける。
⑵　高校現場での授業に配慮する。
⑶　問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ，「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
⑷　「日本史Ａ」との共通問題について，難易度に一層配慮する。

今回３回目の共通テストで，これまでの知見の蓄積を活用し，ご指摘いただいたことも踏まえ，問題作成を行っていきたい。